

女性ならではの視点に期待

中川原地域ふれあいセンター検討会議



中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター検討会議に新しく女性のメンバー6名が加わり、さらなる内容の充実を図ります。

「おたがいさま中川原事業」について女性の視点で意見を述べる新メンバーのみなさん

さっそく、11月実施予定の「おたがいさま中川原試行事業」に対して「ゆーファイブの入浴は朝のほうがゆっくりしてもらえるのでは？」や「汗をかかない季節だから湯冷めの心配もないかな」など、女性ならではの気配り、視点で利用される方の立場に立ったご意見を多数いただきました。

中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター準備室で中川原町連合町内会・民生児童委員等の皆さんが集まって、毎月1回「ふれあいセンター検討会議」を開催してきました。10月16日の会議では事業の全体像や組織図の案も示され、来春4月の実施を旨とし、準備が本格化していくこととなりました。今回の会議からは各町内会長さんに話をしていただき、新たに地域の女性6名が加わっていただきました。

ふくろうの郷では、今実りの秋真っ盛りです。入居者が、畑のサツマイモや、開所記念植樹のたわわに実った柿の収穫を楽しみました。

サツマイモや柿は調理職員によって早速入居者のおやつや料理に変身し、食卓に季節の彩を添えてくれます。

(総務：辻)

ふくろう秋の収穫

意見を参考にさせていただきます。11月25日(金)「ゆーファイブ+ふくろうの郷昼食会」を開催することになりました。今後も生活者の視点として女性の意見を取り入れ、よりよいおたがいさま中川原事業を目指し、話し合いを重ねて行きたいと思っています。

(準備室長：濱田)

ふくろう新聞

<発行>
特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員
洲本市中川原町
中川原28番地1
TEL:0799-25-8550
FAX:0799-25-8551
ホームページ
<http://www.normanet.ne.jp/~hyoufun/>

10月23日第の回ふくろうふれあい愛まつりも1200人近い参加者があり、盛大に開催されました。今回は巨大しゃぼん玉・SLやご当地キヤラ等子ども企画を工夫、親子連れで楽しんでいただくようです。ご協力くださった中川原地域の方、ボランティアの方お疲れ様でした。いよいよ中川原ふれあいセンター事業も、4月の実施に向け、本格化していきます。みなさまの益々の知を集めて行きたいものです。



▲脚立に登り、柿の収穫をする勝楽さん

▲いもほりに夢中になった高田さん

▲中川原保育所の子もたちといも掘り



▲入居者とはばタンで「はばタンダンス」を踊りました



▲優しい笑顔「いぶし瓦の銀さん」



▲洲本市の「しばえもん狸」



▲淡路市の「あわ神」



▲衆議院議員西村康裕様もお祝いにかけてくださいました



▲子供たちからの大きな声援！サルビアレンジャー

～こどもたちの声が響きわたる中川原に～

第6回ふくろうふれ愛まつり

花木ユニットで「ゆめらん」と



▲大人から子供まで大人気「ミニSL」

去る10月23日(日)に第6回ふくろうふれ愛まつりが開催されました。

「こどもたちの声が響き渡る中川原に」というテーマで、ミニSL、淡路島のゆるキャラ5体、淡路三原高校によるシャボン玉、サルビアホール職員による「五色戦隊サルビアレンジャー」など子ども向けの企画を取り入れました。

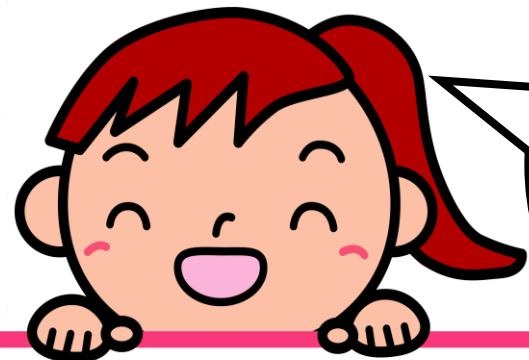
式典は通り雨で予定より20分遅れましたが、模擬店販売、参加者の熱気に押され雨雲はどこかに行き、無事に和太鼓の演奏も行うことができました。

当日は1200人近くの参加者があり、用意したパンフレットがあつというまになくなり、後々に来場するお客様に大変ご迷惑をおかけしました。

模擬店にはB級グルメがたくさん並び行列ができる店もありました。また、心温まる手作りの品物販売もあり大盛況でした。

(事務局：足立・船越)

ふくろう祭りの舞台上で手話を発表してくれた中川原小学校の生徒さんから感想文をいただきました。



「楽しかった手話教室」

4年 小松葉月
わたしは、手話教室でたくさんの手話を習いました。教えてくれたのは、ふくろうのさとの竹原さんと足立さんです。今年の手話でする歌は、「世界が一つになるまで」です。やりなれてきたら、とても楽しく、とてもおもしろかったです。次は、リズムをつけてやりました。とても上手にできたと、自分では思います。もう一度しました。今度は前よりもきれいにスラスラとできたと思えました。ふくろうのさとのふたいの上でやれると思えば、とてもうれしいと思いました。

ざりい参りがた加と皆いう様ただこあだ



「手話をしたよ」

4年 釜田怜奈
手話を習いました。さいしょ、名前しょうかいをしました。わたしの番がきて、友達が、「ガンバレー」と言ってくれました。少しだけきんちょうしました。フルネームを覚えてもらいました。

「釜田」は、いがいにかんたんでおぼえやすかったです。足立さんと竹原さんは、手話の指づかいがすごくはやくてびっくりしました。

みんなの名前の手話を少しだけおぼえました。先生がわたしの手話を見て、「うまいなあ、すばらしい!」と言ってくれました。



▲子供たちは作るのに夢中「巨大シャボン玉」



▲中川原保育所園児によるダンス



▲交流会で自己紹介

北の大地で七施設交流会

10月13日から15日の2泊3日、全国高齢聴覚障害者七施設交流会に入居者5名、職員3名が参加してきました。今年には北海道が舞台であり、交流会が始まると名刺交換や再会を喜び合っていました。

入居者の絶え間ない笑顔に自然と嬉しさがこみ上げてきました。

他の施設の入居者と関わりを持つことができた本当に楽しい旅行になりました。
(生活援助：中畑)

五周年記念誌感想

全国にふくろうの郷を
全国手話通訳問題研究会
島根県支部

石川 利香

1ページ、1ページ大切に読ませてもらいました。全通研の集いでふくろうの郷を見学させて頂いた時の事を思い出しながら活字にして改めて読むと様々な心の叫びが伝わります。

利用者の方の入所前の耐え難い経験や震災なんかに向けへんてと言う奮闘の叫びが伝わりました。

特養で全室個室と聞くだけで、お1人、お1人を大切にケアされているのではと思いつつ読み終えて、より一層それと確信出来ました。

私の知っている特養は職員不足でまるで毎日ベルトコンベアに乗って流れ、止める暇もない様の機械的作業です。

どうしたらふくろうの郷のように利用者を人として見つめ、心の耳を傾けられるでしょうか？

ふくろうの郷が全国に開所して欲しいと心から思いました。職員間の人間関係がとても良い事も感じました。そう言う特別養護老人ホームを増やしていく努力を国がもっと身近なものとして考えてもらいたいです。福祉に関わる制度を障害者の立場になつて改めて頂きたいと深く思いました。



頒価 2,000円

続・地域を語る

第34回(通算)

成長をお祝いする七五三

三歳・五歳・七歳の子の祝。11月15日に行うが、もとは吉日を選び、一定の日を定めなかった。この日を用いるようになったのは、徳川綱吉の子、徳松の祝がこの日行われたからであるとも、この日が鬼宿日※きしゆくどちに当たるからともいう。

農村では、このように一まとめに祝う風習はあまりなく、三歳・五歳・七歳にそれぞれの祝があつたが、男女で年齢を違えて行うのが普通であり、三歳・七歳は女の子の祝で帯の祝といつて付け紐をとって帯を締め始める。五歳はおもに男児の祝で、袴着の祝として知られるが、女の子の祝を祝う土地もあつた。



七歳は紐直しの祝といつて帯をしめ始める。この年から、幼児は一人前の生存権を認められるので、それ以前は「七つ前は神の子」などといつて、人間世界から戻してやることも差支さしかえないもののように考え、七つ前の死児には、本葬を行わなかった。

子供にとって七歳になることは、第二の誕生とも言うべき転機であつた。

東京などの七五三は男女の別なく、七歳・五歳・三歳の子供を親がつれて宮詣りをするのが、全国から寄り集まりの都市などは、こうするのが最も普遍的な方法であつたといえる。

地方では七五三という名称もいかなかった。これを東京で言い出したのは明治以降で、商業政策にあおられて盛大化し、近年は関西でも盛んになつた。

※ 蟹座の五箇の星を鬼宿(鬼星)といつて二十八宿の一つに数える。

炬口八幡神社 浜口禧寛

第35回(通算)

二夜三時の大法要

二夜三時大法要は、正式な「五日三時大法要」を三日間に短縮したもので、世間では「お十夜」と呼ばれています。元々は浄土宗で十夜にわたつて法要が行われていたことに由来し、真言宗の方でも江戸時代あたりではそうだったのかもしれない。

昭和三十年頃まで続いていた当地の「五日さん」には昔からの伝統的なしきたりがまだ残っており、お祭り物やお膳は土地で採れた野菜などを檀家の人が総出で準備しました。質素でしたが、檀家の皆さんの心のこもつたものでした。

世の中がのんびりとして、皆さんの心もゆったりとした時代でしたので、近隣の結衆寺院の坊さんも今ほど雑用に追われることもなく、四日間の間ずっと会場寺に泊まり込み、ひたすら読経に集中していました。

読経の間は、檀家の人たちとゆつくり世間話をしながら、

よくお酒も飲んでいたようで、お酒にまつわる坊さんの話はつきません。囲碁もよくやり、どの寺にも必ず碁盤の一つや二つあり、碁の強い坊さんも多かつた。

それだけに会場寺の世話人はさん坊さんの接待に気をつかい、特に寒い時期だけに布団の支度が大変だったようです。懐かしく良き時代の話です。

延命山・正法寺住職井上義照



▲今年12月3・4・5日当寺でとり行われます。

【おしらせ】

「地域を語る」は好評につき、今号から「続・地域を語る」として連載を再開させていただきます。これからも「愛読をお願い致します」。



職員互助会 秋の旅



10月の秋晴れの日に 恒例の旅行に職員・家族合わせて25人で行ってきました。午前中は京都の与謝(よざ)郡聴覚言語障害センターをご厚意で見学させていただきました。利用者の前田さん、糸井さんご夫婦にコーヒーをごちそうになりました。

お昼は京都舞鶴「ほのぼの屋」へ行きました。このレストラン自体が精神障害者施設なのですが、本格的フランス料理、舞鶴湾を望む素晴らしい景色と建物に感激しました。皆さんもぜひ訪れてください。

午後は「岸壁の母」で有名な舞鶴引き揚げ記念館を見学、平和を守っていく大切さを再認識しました。盛りだくさんの旅でしたが日頃で出会うことの少ない職員、家族同士の交流ができて有意義な旅でした。

(医務：八木)